

女性の苦勞を知ろう

長野県長野工業高等学校
小山 顕司朗 大井 りく



きっかけ

- ▶ 授業で女性差別について考える機会があり自分たちには何ができるかと、疑問に思い女性の苦勞について調べてみようと思ったからです。

SDGsの目標

- ▶ ジェンダー平等を実現しよう。（5）
- ▶ 人や国の不平等をなくそう。（10）



現状

- ▶ 出産で退職する女性は年間20万人。
- ▶ 平成26年度に都道府県労働雇用均等室に寄せられたセクハラについての相談件数は1万1289件そのうちの女性労働者は、約6割。
- ▶ 諸外国に比べて男性の育児参加率が低く育児負担が女性にかたよっている。

問題点

- ▶ 女性が仕事と子育てを両立することが難しい。
- ▶ 子育てによって失われるコストが大きい
- ▶ 正常な勤務状態が維持できなくなって精神的に追い込まれて退職を余儀なくされる。



課題

- ▶ 女性がハラスメントによる退職を防ぐために女性が退職することは、即戦力を失うという認識をもつ。
- ▶ 母親だけでなく父親も家事をするように分担する。
- ▶ 企業が男性の育児休暇を取得しやすいようにする。

SDGs 10代からの提言

- ▶ ジェンダー平等実現のため男性、女性に対する認識を改めよう。



感想 考察

- ▶ この学習を通して改めて女性に対する差別や苦勞を知ることができたので、これからは女性を思いやる意識をしていきたい。
- ▶ 男性も育児の協力や、ハラスメント問題について考えたりすることで女性の苦勞は減るでしょう。